24

なまえ　ウメ

にほんでのよびかた　梅（ウメ）

しゅるい　バラ科（カ）

なまえのりゆう　中国の人はウメのことを「ムエイ」とよんでいて、日本の人が「ウメ」とききまちがえたから

とくちょう　おはなみのだいひょうのはな。実はさくらよりさきにあったりする。2月から3月にさく。いまの年の一つまえにあったえだの、めができているところに、いいにおいのする花が、1~3こくらいつける。色は、白だったり、赤かったり、うすいぴんくだったりする花びらは5こついてる。たまごみたいなかたち。さきっちょはまるい。

なるくだもの　2~3cmのまるいかたち。6月にじゅくしてきて、きいろくなってくる。なったさいしょらへんは、みどりでそのままたべるとどくがあって、さいあくしぬ。くだものには、うすく小さい毛がはえてる。

じゅくしたくだものはいろんなりょうりにつかえるが、すごくすっぱい。けんこうになるらしい。

ウメ

和名	梅	24	
別名			

分類				
科（APG分類）	バラ科	属	サクラ属
科（旧分類）		属	アンズ属
科（旧分類）		属	

名前の由来

・梅は実を薬用にする「烏梅（うばい）」の形で中国から伝来したものと言われている。
中国では「ムエイ」と発音だったものを日本人が「うめ」と聞き取ったためだといわれる。

樹木の特徴

・中国南部原産で、広く観賞用、果樹、薬用として栽培される落葉小高木。日本には奈良時代に渡来した説が有力で「花見」の代表としてはサクラより長い歴史をもつ。
・花は両性花で、花期は2～3月。葉の展開まえに開花する。前年枝の葉腋に芳香のある花を1～3個ずつつける。普通は白色で紅色や淡紅色のものもある。
・花弁はふつう5個、広卵形で先端は円形。雄しべは多数あり、花弁より短い。雌しべは1個。
・果実は核果で、径2～3cmの球形。6月頃黄色く熟す。核は径1cmの扁平な楕円形で表面に小さな穴がある。
・樹皮は暗灰色で、不揃いな割れ目がある。葉は互生し、葉身は倒卵形または楕円形、葉先は急に狭くなって尖る。葉の縁には細かい鋸歯があり、両面に微毛がある。

用途・その他

・未熟な青梅は中毒を起こす可能性がある物質が含まれているので生食は避ける。
・完熟梅は梅干し、梅酢、ジャムなど食用にまた甘露梅やのし梅などの菓子や梅肉煮などの料理にも用いられる。
・強い酸味がありリンゴ酸、クエン酸、コハク酸などの有機酸を含む、健康食品で販売される。
・塩梅（あんばい）の語源に「ちょうど良い」の意味

作成年月日　2021，08，17